

受託研究 三宅村郷土資料公開・保存事業

期間：2017年11月1日～2018年2月28日（継続）

〔所員〕 田上 繁

三宅島郷土資料の公開と保存のための調査、研究

田上 繁

三宅島調査は、去る2014年度に、中央水産研究所の所蔵資料の目録作成作業に伴う現地調査を契機にして始まった。その調査には、所員の田上繁、事務局の越智信也に加え、三宅島関係資料の目録の解題を執筆する担当者が出向いた。2016年度には、田上経済ゼミナールの学部生と、田上が担当する歴史民俗資料学研究科の歴史史料整理補修実習の履修者および希望する院生などが参加した。すでに、その成果の一つである『三宅島のオーラルヒストリー』が2017年3月に公刊されている。この三宅島調査は、2016年度より三宅村教育委員会の委託事業「三宅島郷土資料公開・保存事業業務委託」の業務となり、その年度から常民研の本格的な調査、研究活動として位置づけられることになった。2016年度には、郷土資料館の資料公開、保存に伴う一連の作業と、三重県鳥羽から移住してきた海女などによるオーラルヒストリーを中心とする調査を実施した。

また、2017年度は、11月2日から5日までの3泊4日（2日の夜は船中泊）の日程で現地調査を行い、田上と越智の引率によって授業履修者や参加希望院生たちが島を訪れた。4日の午前中は、江戸時代に島役所として機能した宮司壬生明彦宅へ赴き、現存する茅葺屋根の家屋の見学と、富賀



写真1 三宅島郷土資料館の資料調査（2017年11月）

神社、御笏神社、椎取神社の由来や年中行事などについて聞き書き調査を行った。午後には、韓国（うち1名は済州島）から三宅島へやってきて、それぞれ焼肉店を経営されている女性3名からライフヒストリーをうかがった。島で生活の場を築くまでの苦労話など大変興味深い話を語っていただいた。今後、昨年度の海女の話とともに、これらのオーラルヒストリーの内容を編集、発信していく予定である。最終日の5日の午前中には、これまでの調査で知りえた島内の文化財や遺跡の巡見を実施した。とくに、過去の火山によって埋まった神社の鳥居や伊ヶ谷にある流人の不受不施派僧侶の墓石などは、貴重な文化財として今後の研究の素材となるものである。

このほか、今年度の調査の中で、郷土資料館の民具および歴史資料について全体的な現場の確認を行った。資料館2階の収蔵状況の見取り図も作成して今後の作業の便宜をはかることとした。郷土資料館の資料目録の完成までには、かなりの日時と労力を要するものと思われる、明確な目標を定めて前進させていくことと、『三宅島のオーラルヒストリー』の続刊を刊行していく取り組みを行う考えである。



写真2 三宅島郷土資料館収蔵の民具

■活動データ

2017年度の活動

○壬生明彦氏他聞き書きおよび三宅島郷土資料館資料目録作成作業 2017年11月2日～5日

三宅島神着、三宅島郷土資料館 田上繁・越智信也、王海翠・邵曉葉・日座久美子・山室陸（院生）、西原彰一（総合研究大学院大学文化科学研究科／院生）